

器 2 6 医療用遠心ちんでん器
一般医療機器 細胞用遠心機 JMDコード 35881000

サイト・テック オートスマア 2500

EMC適合

【形状・構造及び原理等】

【各部の名称】



【作動・動作原理】

検体（液体）を入れたチャンバーをセットしたガードボウルを高速で回転させることにより、遠心力で液体内の細胞を分離し、スライドガラス面に収集する。ローター（ガードボウル）の回転数と（処理）時間を設定できる。

【仕様等】

型式：CF-12E

本体寸法：375(W)×490(D)×225(H) mm
本体質量（ガードボウル含まず）：約10kg
ガードボウル質量：約1.7kg
検体処理数：最大12スライド
スピード設定：200～2500 rpm
時間設定：1秒～99分59秒

電氣的定格

電圧：AC100-240V
周波数：50/60Hz
消費電力：100VA

【設置環境】

・温度 10～40℃
・湿度 30～85%RH（結露なきこと）

*【使用目的又は効果】

病理学や臨床病理学で行われる組織学的研究及び検査において、細胞診に必要な細胞塗抹標本を作製するための細胞用遠心機（自動細胞収集装置）

【使用方法等】

【必要とする設備】

電源容量：AC100V 15A以上 接地端子付き
AC115V 10A以上 接地端子付き
AC230V 5A以上 接地端子付き
接地端子：D種以上

【使用方法】

以下の手順の詳細は取扱操作説明書の「操作方法」をご参照ください。

- ① チャンバーを組み立てて、検体を入れ、キャップをする。
- ② チャンバーをガードボウル内のローターにセットする。
- ③ ボウル蓋をかぶせ、ロックをする。
- ④ 電源スイッチをONにする。
- ⑤ 装置蓋を開け、ガードボウルをセットして、装置蓋を閉める。
- ⑥ V、^ キーを押し、使用するプログラム番号を選択し、回転数、運転時間を確認する。
- ⑦ START/STOP キーを押し、運転を開始する。
蓋はロックされ、蓋ロック表示灯が点灯する。

運転が開始されます。運転が終了すると、ブザーが鳴ってお知らせします。

- ⑧ ロック表示灯が消灯したら、蓋開押しボタンを押して、装置蓋を開ける。
ガードボウルを取り出し、装置蓋を閉める。
- ⑨ 電源スイッチをOFFにする。
- ⑩ ボウル蓋を取り外し、チャンバーを取り出し、チャンバーからスライドガラスを取り外す。
- ⑪ ガードボウル等を消毒もしくは滅菌する。

【使用上の注意】

取扱操作説明書の「安全上の注意」も併せてご参照ください。

- ・ガードボウルの回転中に蓋を開けない。
- ・ガードボウルの回転中は装置の移動を行わない。
- ・劣化、破損したチャンバー、変形したガードボウル、劣化したバッキンの使用はしない。
- ・蓋フック穴、背面、または側面の穴に異物を差し込まない。
- ・装置の周囲に火気を近づけない。
- ・可動部の隙間に手を挟まないように注意する。
- ・付属以外の電源コードは使用しない。電源プラグは、接地端子付きコンセントに接続する。
- ・強度が十分なテーブルまたは設置台に水平に設置する。
- ・使用する時以外はガードボウルを装置から外す。
- ・ヒューズは指定されたものを使用する。

取扱操作説明書を必ずご参照ください。

- ・ 装置が異常動作をした場合は、直ちに電源を切る。
- ・ ガードボウルの開閉、検体の取扱いは、安全キャビネット内で行う。
- ・ オートクレーブでの滅菌後にガードボウルを取り扱う際は、手袋等の保護具を装着する。
- ・ チャンバーは、バランス良くローター（ガードボウル）にセットする。
- ・ ガードボウルを持ち運ぶ際は、ボウル蓋をロックし、両手でガードボウルを保持する。
- ・ 装置の定期点検を、1年に1回行う。
- ・ 運転後、ボウルふたをロックした状態で放置しない。
- ・ 装置やガードボウルにUV殺菌灯光を照射しない。
- ・ 装置やガードボウルにオゾンガスを暴露させない。

【保管方法及び有効期間等】

* [耐用期間]

耐用期間：製造出荷後 8年[自己認証(当社データ)による]
 条件：取扱操作説明書及び添付文書に記載された取扱注意事項あるいは保守・点検に係る事項を順守し、定期的に日常点検・保守点検を実施すること。
 点検結果により、下記に示す主要な構成部品や保守点検事項に記載された交換部品を適切に交換すること。保守に用いる主要な構成部品は下表の通り。

主要な構成部品名	使用耐用年数
制御基板	5年
電源装置	5年
検出センサ	5年
DCモータ	8年
モータドライバ	5年
ガードボウル	3年

※ここに記載した装置の耐用期間及び主要な構成部品の使用耐用年数は保証期間ではなく、上記の条件を満たした場合での平均的な年数となるため、使用環境、使用方法などにより異なります。

【保守・点検に係る事項】

【使用者による保守点検事項】

詳細は取扱操作説明書の「日常の点検とお手入れ」をご参照ください。

- ・ 操作パネルの清掃
 操作パネル面は、乾いた布あるいは中性洗剤液に浸し固く絞った布で拭く。
- ・ 装置の清掃
 装置蓋のパッキン、ガードボウルを入れる場所に溜まった液等は、運転ごとに清掃をする。
 清掃には、消毒用エチルアルコール、または消毒用イソプロピルアルコールを用いて、柔らかい布に浸し、軽く拭く。
- ・ ガードボウルの処置
 ガードボウルは、滅菌、消毒を行うことができる。
 オートクレーブ(121℃、20分)により、滅菌をすることができる。
 消毒は、次亜塩素酸ナトリウム水溶液(ただし0.5%以下20分以内)、消毒用エチルアルコール、あるいは消毒用イソプロピルアルコールに浸漬する。
 滅菌・消毒後、中性洗剤液もしくは石けん水を用いて柔らかいスポンジで汚れを落とし、水ですすぐ。
 引き続き、自然乾燥する。なお、乾燥機を使用する際は80℃以下の設定温度とする。
- ・ チャンバー6ml/12mlの処置
 チャンバー6ml、チャンバー12ml、ゴム板6ml、ゴム板12ml、チャンバーホルダー6/12ml、チャンバーキャップ6/12mlの汚れは、水(40℃以下)または消毒

液で洗い落とす。消毒液を使用した後、良く水洗いを行う。

- ・ チャンパーセット 1mlの処置
 使い捨てであるため、検体および試薬に対応した方法で廃棄する。
- ・ パッキンの交換
 ボウル蓋のボウルパッキン、Vパッキンは、劣化したら交換するか、少なくとも年一回交換する。その際、パッキンの装着向きに注意する。

【業者による保守点検事項】

以下の項目を必要に応じて点検し、部品を交換します。

- ・ ガードボウルの点検
- ・ 駆動部（モーター）の点検
- ・ アンバランス機構の点検
- ・ 蓋ロック機構の点検
- ・ 蓋開閉機構の点検
- ・ 制御基板の点検
- ・ 各種パッキン・消耗品類の点検

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

名称：サクラ精機株式会社
 電話番号：026-272-8381

製造業者

名称：サクラ精機株式会社 長野本社工場

販売業者

名称：サクラファインテックジャパン株式会社
 住所：東京都中央区日本橋本町3-1-9
 電話番号：03-5643-2630（営業窓口）
 機器の故障に関するお問合せ先：0120-392-874
 （フリーダイヤル）